

Economic Indicators

発表日: 2022年10月20日(木)

貿易統計(2022年9月)

～7-9月期の実質輸出は持ち直したものの物足りない結果～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量						
		原数値		季調値		輸出金額		輸入金額		前年比	輸出数量			輸入数量		
		前年比	前年比	前年比	前年比	アメリカ	EU	アジア	アメリカ		EU	アジア				
21年	9月	▲ 6,369	▲ 6,106	13.0	38.4	3.3	▲ 9.8	15.3	8.9	7.5	17.0	6.1	6.7			
	10月	▲ 750	▲ 3,778	9.4	26.8	▲ 2.6	▲ 8.2	5.2	▲ 0.1	▲ 3.0	2.0	2.3	▲ 4.2			
	11月	▲ 9,569	▲ 5,155	20.5	43.8	4.7	▲ 2.8	10.8	5.4	6.0	17.1	24.2	2.3			
	12月	▲ 5,889	▲ 4,443	17.5	41.2	2.1	6.7	3.4	▲ 0.5	1.0	8.7	5.1	1.0			
22年	1月	▲ 21,994	▲ 9,243	9.6	38.8	▲ 4.1	▲ 1.0	9.7	▲ 10.5	4.8	4.8	21.0	3.9			
	2月	▲ 6,772	▲ 10,136	19.1	34.2	2.8	5.0	2.1	6.1	▲ 0.8	6.1	12.8	▲ 5.4			
	3月	▲ 4,240	▲ 9,808	14.7	31.4	▲ 1.4	11.7	7.6	▲ 7.2	0.0	▲ 2.1	2.7	▲ 0.3			
	4月	▲ 8,538	▲ 15,560	12.5	28.4	▲ 4.5	7.9	6.7	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.1	5.2	▲ 15.6			
	5月	▲ 23,906	▲ 18,974	15.8	49.0	▲ 3.5	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 4.2	4.7	▲ 1.7	6.4	3.1			
	6月	▲ 14,042	▲ 19,410	19.3	46.2	▲ 1.6	▲ 1.6	6.7	▲ 2.5	1.2	▲ 1.8	▲ 6.5	2.0			
	7月	▲ 14,449	▲ 21,307	19.0	47.4	▲ 1.9	▲ 5.6	17.3	▲ 2.0	2.2	17.4	▲ 4.0	2.2			
	8月	▲ 28,200	▲ 23,378	22.0	49.9	▲ 1.2	10.4	▲ 1.5	▲ 4.0	2.7	3.9	▲ 8.5	4.2			
	9月	▲ 20,940	▲ 20,098	28.9	45.9	3.8	17.9	11.2	▲ 2.5	▲ 1.8	1.8	5.8	▲ 0.2			

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○大幅な貿易赤字が続く

財務省より発表された9月の貿易統計によると、貿易収支は▲20,940億円の赤字(コンセンサス: ▲21,454億円)となった。輸出金額は前年比+28.9%(コンセンサス: +26.7%、レンジ: +24.4%～+29.0%)、輸入金額は同+45.9%(コンセンサス: +44.7%、レンジ: +38.6%～+53.1%)となった。輸出は金額ベースの前年比が8月(+22.0%)から拡大、数量ベースでもプラスに転じており持ち直しが続いている。一方で、輸入についても原油高や円安を背景に金額ベースで高い伸びが続き、貿易収支は14カ月連続の赤字となった。

季節調整値での貿易収支は▲20,098億円の赤字となった。このところ軟調だった原油相場を反映して輸入が前月比▲0.6%と9カ月ぶりに減少した一方で、輸出が前月比+3.2%と2カ月ぶり増加したことで、前月から赤字幅が縮小している。

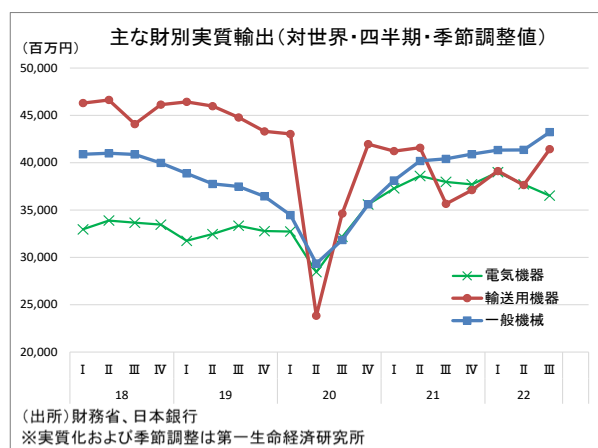
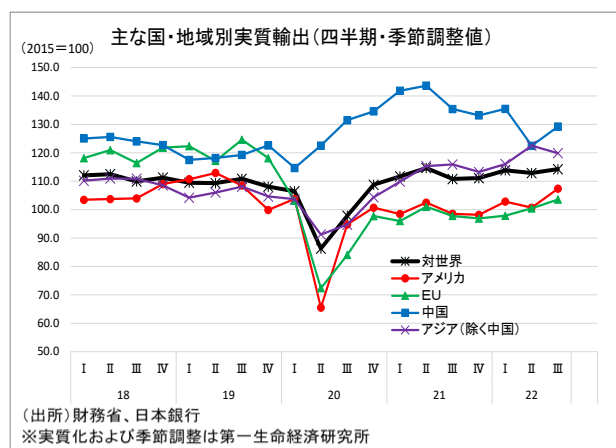
○7-9月期の実質輸出は持ち直すも回復は緩慢

為替等物価変動の影響を除いた9月の実質輸出は、前月比▲0.5%(8月: 同▲0.1%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)となった。四半期で見ると、7-9月期の実質輸出は前期比+1.2%(4-6月期: 同▲0.8%)となり、2四半期ぶりに増加に転じた。7-9月期は、6月に中国のロックダウンが解除されたため持ち直しは予想されていたが、回復は緩やかなペースに留まり期待以上のものにはならなかった。半導体などの供給不足が深刻化した21年7-9月期以降、実質輸出は回復感に欠ける動きが続いている。

7-9 月期を国・地域別に見ると、米国向けが前期比+6.6%（4-6 月期：同▲2.1%）、EU 向けが前期比+3.1%（4-6 月期：同+2.6%）、中国向けが前期比+5.5%（4-6 月期：同▲9.6%）、中国除くアジア向けが前期比▲2.1%（4-6 月期：同+5.6%）となった。

米国向け、欧州向けは、供給制約の緩和によって主力である自動車輸出が持ち直したことが牽引し、前期比で高い伸びとなった。欧米諸国では急ピッチな金融引き締めが悪影響が懸念されたが、基調としては緩やかな増加傾向を崩さなかった。中国向けは、ロックダウン解除により 7-9 月期は持ち直したが、ゼロコロナ政策の影響が残り 4-6 月期の落ち込みを取り戻すには至らず、低迷した状態が続いている。加えて、中国を除くアジア向けが減速した。中国経済の影響を受けやすい香港や台湾といったアジア NIES で頭打ちが見られていることが原因。

財別では、主力の自動車など輸送用機器の輸出が持ち直したが、半導体などの電子部品関連や金属製品、化学製品といった輸出が下振れたことが輸出全体の重荷となっている。輸送用機器についても、21 年夏場から続く供給制約による落ち込みを挽回するには至らっておらず、物足りない結果といえる。また、これまで世界的なデジタル需要に支えられて堅調だった半導体等の電子部品が含まれる電気機器については、2 四半期連続のマイナスとなり、減少傾向に転じている点が懸念だ。中国のゼロコロナ政策の影響で生産活動の停滞が続いているアジア向けで減少したことが影響している。

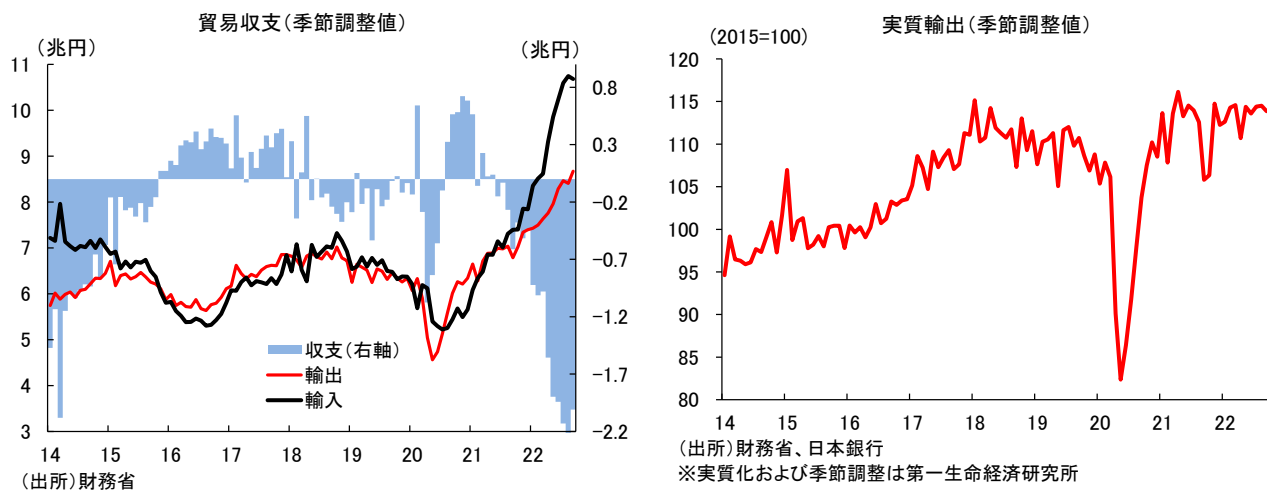


○先行きも高水準での貿易赤字が続く見込み

先行きは、当面は貿易収支（季節調整値）は高水準での赤字が続くとみる。

輸出は下押し圧力が強い状況が続く。7-9 月期は増加傾向を維持した米国向け、欧州向けだが、急ピッチな金融引き締めが悪影響は今後顕在化する可能性が高い。欧米諸国を中心とした世界経済の減速懸念は依然として大きく、輸出は下押しされる可能性が高い。

一方、輸入については今後も高止まりが続く見込みだ。足元の原油価格（ドバイ）は、世界経済の減速による需要減を警戒して 80 ドル台まで下落したが、足元では OPEC プラスの大幅減産決定を受け再び上昇している。また、輸入物価も円安によって押し上げられていることもあり、輸入は高水準での推移が続くだろう。円安は輸出物価の押し上げにも繋がるが、貿易赤字となっている現状では貿易収支を悪化させる要因になりやすい。貿易収支は今後も高水準での赤字が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

